

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：24405

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18610

研究課題名（和文）子どもの貧困指標開発と政策との結合に向けた探索的研究

研究課題名（英文）Exploratory research for developing a child's poverty index and promoting it as a policy

研究代表者

山野 則子（Yamano, Noriko）

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授

研究者番号：50342217

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：大阪府子どもの貧困調査の結果から子どもの貧困指標を開発した。この指標を反映したスクリーニングシステムYOSS（Yamano Osaka Screening Sheet）の自治体への導入を進め、これらの自治体のデータを用いて、子どもの貧困指標と関連する項目を抽出した。次に、スクリーニング項目の継続的な変化を分析した結果、経済的に困難を抱えている世帯の子どもを支援するうえで、特に「服装・身だしなみ」や「学力」「家庭の様子」をより注視しながら支援につなげていく必要があることを示唆しており、科学的根拠に基づく実践プログラム的一端を構築することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもが貧困に陥る社会的構造を明らかにすることで、貧困状態にある子どもを正確に捉える指標を開発する。学校現場において、課題があり支援を必要としている子どもを捉えるためのスクリーニングツールにこの指標を応用することで、取りこぼすことなく貧困状態にある子どもを拾い上げることが可能となる。

また、スクリーニングデータを多角的に分析することで、子どもの状態に応じて注視すべき点を明らかにすることができ、これまでと比較してより適切な支援法を提示することができるようになる。

研究成果の概要（英文）： We developed a child's poverty index by analyzing the questionnaire survey results of the child poverty in Osaka. Then, we proceeded with introduction of a screening system "YOSS" (Yamano Osaka Screening sheet) for the children in need of social support into local government. Yoss included the index. As a result of analyzing the screening data, items for the screening associated with the index were picked up. Then, we analyzed the screening data along the time axis. As the result, we found that disadvantaged children have to be supported following states of appearance, academic ability and home environment. According to the above results, we were able to develop a part of Evidence-Based Practices (EBP) program for child poverty.

研究分野：子ども家庭福祉

キーワード：子どもの貧困 指標開発 はく奪指標 貧困指標と政策の結合

1. 研究開始当初の背景

子どもの貧困対策を総合的に推進するために講ずべき施策の基本となる事項その他事項を定めた「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が2014年1月に施行された。これを受けて、政府が定めるべき大綱について、子どもの貧困対策に関する検討会が立ち上がり、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が出された。「貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成、子供に視点を置いた切れ目のない施策の実施、子供の貧困の実態を踏まえた対策の推進、子供の貧困に関する指標を設定しその改善に向けて取り組む」などの4点を中心に方針が明記され、教育の支援、生活の支援、保護者の就労支援、経済的支援が打ち出された。学校を中心にした施策として、学校プラットフォームという言葉も打ち出されると同時に、世間の認知度も向上し、子どもの貧困が社会問題化され始めていた中、子どもの貧困を早期に捉えるための指標の必要性や有用性の高い支援の方策づくりが求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、子どもの貧困指標と政策の結合を目指し、以下の2点を研究の目的とした。まず1点目として、2016年度に受託実施した「大阪府子どもの生活実態調査」を基に子どもの貧困の構造を分析し、子どもの貧困指標の開発を行う。学校でのスクリーニングに反映させることである。

2点目として、開発した子どもの貧困指標を学校でのスクリーニングに反映し、プログラム評価の理論を援用して、貧困対策における有効性が実証された科学的根拠に基づく実践(Evidence-Based Practices: EBP)プログラムの効果モデルの構築を行う。具体的には、開発した貧困指標を活用して、重点的にどこにどのような施策を展開すると効果的であるか、スクリーニングデータを多角的に分析することで支援プログラムを作成する。

3. 研究の方法

受託実施した「大阪府子どもの生活実態調査」のデータ(約10万件)を用いて貧困の構造を分析し、日本の実態にあった日本版子どもの貧困指標を開発した。これについては、経済的資本だけではなく、健康や教育などの人的資本(human capital)、つながりやネットワークなどの社会関係資本(social capital)の3つの資本の欠如の実態を多面的に分析し、新たな貧困の基盤概念を検討した。その後、開発した子どもの貧困指標を活用してはく奪指標が年齢や居住地域に関わらず使えるものであるかどうかの試行調査を行った。

次に、子どもの貧困指標が実践的に使用できるか、その妥当性を検証するために、学校現場における児童の課題の認識・支援につながるスクリーニングシート(YOSS: Yamano Osaka Screening Sheet)を開発し、これに貧困指標を反映させるとともに、このスクリーニングシートの普及拡大を進めた。また、このスクリーニング法の利便性向上のため、蓄積したスクリーニングデータを基に支援の方向性を自動的に判定するAI判定システムを組み込むことで、子どもの貧困の特定・支援における有用性の向上を企図したシステムの開発を進めた。

次に、これまでに実施されたスクリーニングのデータを用いて、学校内のチーム会議で議論される子どもや潜在的に貧困リスクの高い子どもに対する有効な支援策及び貧困構造の分析を行った。そして、得られた結果を基に、支援プログラムの効果的なモデルを作成した。

4. 研究成果

貧困の構造を分析した結果、子どもの貧困指標(はく奪指標)を開発した。これが実際に使えるものかを試行・分析した結果、他年齢および他地域でも耐えうるものであることを実証した。ここまでの成果として、内閣府が示す「子どもの貧困指標」の一部に本研究により開発された指標が一部採択された。また、文部科学省より「スクリーニングによる児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見」のためのスクリーニング活用ガイド作成の依頼を受けた。さらに、書籍として研究成果をまとめた。

次に、開発した子どもの貧困指標(はく奪指標)をYOSSスクリーニングシートに反映させて、大阪府と沖縄県で指標の妥当性を検証した結果、潜在的な貧困などといった課題を抱える子どものスクリーニングに有効であることが明らかとなった。一方で、利便性の問題が生じたことや、支援の方向性を決める際に有用性が高いツールとなることを目指して、これまでのスクリーニングデータを学習させたAIを組み込んだウェブベースのスクリーニングシステムを開発した。

最後に、経済的に困難を抱えている家庭の子ども（スクリーニング項目の内「諸費滞納」にチェックが付いている）について、スクリーニング項目の継時的な変化を分析した。その結果、経済的に困難を抱える世帯の子どもにおいて、現時点では多くの問題が見受けられなかったとしても、「服装・身だしなみ」や「学力」において気になる点がある子どもは、そうでない子どもと比べて、翌年度に問題が増える（改善しにくい）可能性があることを明らかにした。一方、現時点ですでに多くの問題を抱えている子どもにおいては、「学力」や「家庭の様子」に気になる点があると、そうではない子どもと比べて、翌年度さらに問題が悪化する（改善しにくい）可能性があることを明らかにした。これはすなわち、経済的に困難を抱えている家庭の子どもを支援するうえで、特に「服装・身だしなみ」や「学力」「家庭の様子」をより注視しながら支援につなげていく必要があることを示唆しており、EBP プログラムの一端を構築することができた。

<引用文献>

文部科学省、山野則子研究室、スクリーニング活用ガイド～表面化しにくい児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見のために～、公立大学法人大阪府立大学山野則子研究室、2020

大阪府、大阪府子どもの生活に関する実態調査、公立大学法人大阪府立大学山野則子研究室、2017

沖縄県・内閣府沖縄振興局、令和元年度沖縄子供の貧困緊急対策事業分析・評価・普及事業報告書、大阪府立大学山野則子研究室、2020

④沖縄県・内閣府沖縄振興局、令和5年度沖縄子供の貧困緊急対策事業分析・評価・普及事業報告書、大阪公立大学山野則子研究室、2024

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山野則子・石田まり	4. 巻 54
2. 論文標題 困難を抱える家庭への影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児内科	6. 最初と最後の頁 174-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山野則子	4. 巻 47
2. 論文標題 コロナ禍における子ども家庭をめぐる生活実態とソーシャルワーク	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山野則子	4. 巻 296
2. 論文標題 子どもの貧困と学校教育～コロナとデジタル化からの動き～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 時報市町村教委	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山野 則子、小倉 康弘、石田 まり	4. 巻 38
2. 論文標題 見えない貧困，子ども虐待などを背景にした子どもへの支援システム作り??スクリーニングの可能性??	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育システム情報学会誌	6. 最初と最後の頁 31～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14926/jsise.38.31	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 46
2. 論文標題 ソーシャルワーク最前線 子どもの貧困対策：企業，教育，福祉へのマクロアプローチ 門真市こども政策課 子どもの生活支援担当副参事 小西紀至さんに聞く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 46-1
2. 論文標題 講座 社会実装 (子ども家庭福祉領域) よい実践 (マイクロ・メゾ・マクロ) を定着させる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 46-3
2. 論文標題 講座 社会実装 (子ども家庭福祉領域) (3) : チーム学校のメゾ実践 エビデンスに基づき循環し協働を生み出す	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 61
2. 論文標題 学校組織が生きやすい不祥事を防ぐために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校運営No.697	6. 最初と最後の頁 20, 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子、石田まり、山下剛徳	4. 巻 69
2. 論文標題 学齢期における子どもの課題スクリーニングの可能性 チーム学校を機能させるツールとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会問題研究	6. 最初と最後の頁 1, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00016735	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 -
2. 論文標題 子育て政策の展望 すべての子どもたちを視野に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 マッセOSAKA研究紀要	6. 最初と最後の頁 3, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山野 則子	4. 巻 1
2. 論文標題 「子ども家庭福祉から見た「我が事・丸ごと」地域共生社会」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究、Vol144	6. 最初と最後の頁 36、43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野 則子	4. 巻 64
2. 論文標題 「スクールソーシャルワークからの子どもの不登校・いじめ・自殺防止への提言」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊教育展望 5月号	6. 最初と最後の頁 31、35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子・田中理恵・側垣一也	4. 巻 101
2. 論文標題 「教育と福祉の現場の連携をいかにすすめるか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊福祉 6号	6. 最初と最後の頁 14、23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 93
2. 論文標題 子どもの貧困と人権～EBPとVBP～』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 GLOBE、2018春	6. 最初と最後の頁 12、13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 193
2. 論文標題 『「子どもの貧困」：教室で見えることの重要性』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ひょうごの人権教育	6. 最初と最後の頁 1、2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 44
2. 論文標題 「子ども家庭福祉から見た「我が事・丸ごと」地域共生社会」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 36,43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 64
2. 論文標題 「スクールソーシャルワークからの子どもの不登校・いじめ・自殺防止への提言」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊教育展望2018年5月号	6. 最初と最後の頁 31,35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 20
2. 論文標題 「学校における子ども虐待～スクールソーシャルワークの実態」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『子どもの虐待とネグレクト』	6. 最初と最後の頁 328-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 58
2. 論文標題 福祉と教育の協働をめぐる諸問題～子ども家庭福祉の立場から～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 106, 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久山藍子、山野則子	4. 巻 44
2. 論文標題 ソーシャルワーク最前線 子どもの貧困対策の一手になったスクールソーシャルワーカー：究極の目標：地域づくりに取り組む久山藍子さんに聞く	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉実践の総合研究誌	6. 最初と最後の頁 145 - 149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野則子	4. 巻 58
2. 論文標題 福祉と教育の協働をめぐる諸問題：子ども家庭福祉の立場から（春季大会シンポジウム 教育と福祉における協働の論点を探る）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉学 = Japanese journal of social welfare	6. 最初と最後の頁 106-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嵯峨嘉子、山野則子、所道彦、駒田安紀、小林智之	4. 巻 20
2. 論文標題 大阪府「子どもの生活に関する実態調査」から見える子供の貧困：生活保護利用の有無に着目して（特集 子どもの貧困の現状と政策的課題の検討：貧困研究会第10回研究大会共通論題より）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 貧困研究 = Journal of poverty	6. 最初と最後の頁 78-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒田安紀、嵯峨嘉子、小林智之、山下剛徳、所道彦、山野則子	4. 巻 65
2. 論文標題 困窮度による子どもの健康格差：大阪府子どもの生活に関する実態調査より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 厚生 の指標 = Journal of health and welfare statistics	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒田安紀、山野則子	4. 巻 18
2. 論文標題 経済的課題が子どもの学力・心理的発達・生活習慣とそれらの関係に与える得今日の予備的検討：A市データの二次分析より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子ども家庭福祉学	6. 最初と最後の頁 68-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yukari Ito, Noriko Yamano
2. 発表標題 Impact of COVID-19 on Employment and Family Life of the Child-Raising Generations
3. 学会等名 The 18th East Asian Social Policy Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林萍萍、山野則子
2. 発表標題 コロナ禍における子どもの抑うつに関連要因に関する検討
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko Yamano
2. 発表標題 The Impact of the COVID-19 Pandemic Child Health: A Case Study in Japan
3. 学会等名 4th International Conference on Public Health and Well-being
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山野則子、中島智晴、鈴木あい、渡辺健太郎、伊藤莉央、木下昌美、橋本磨和、林萍萍、黄健育、藤川拓海
2. 発表標題 チーム学校を形成するAIスクリーニング（発見から支援まで）
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症の機関調査から見える子どもたちへの影響と支援方策
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 チーム学校のあり方 教育と福祉の協働の可能性
3. 学会等名 2019年度日本教育支援協働学会研究大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 チーム学校を形成するスクリーニングシステム（発見から支援まで）～AIシステム構築の可能性～
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 子どもにとっての地域共生社会：学校プラットフォームとは～子供の視点で考える～
3. 学会等名 日本ソーシャルワーク学会&鳥取県社会福祉士会共同企画『ソーシャルワーク・コラボinとっとり』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 学校における課題発見のスクリーニングー発見から支援までのシステム構築
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 「エビデンスに基づく実践モデルの構築と制度・政策化へのアプローチ」
3. 学会等名 後援日本評価学会・エビデンスに基づく教育研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野々村真紀・山野則子
2. 発表標題 子どもの貧困調査最前線～大阪の10万件データ分析からの提案とその実態～
3. 学会等名 子ども家庭福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 「チーム学校における教員と職員の法制 教師の働き方改革とSSW 」
3. 学会等名 日本学校ソーシャルワーク学会課題別研究分科会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 「社会課題解決に有効な実践モデルの開発とその制度化に向けたソーシャルワークの方法論～地域共生社会づくり・社会的インパクト評価/投資の潮流に対応するアプローチを考える～」
3. 学会等名 日本ソーシャルワーク学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 「スクールソーシャルワーク事業モデルのインパクト評価-介入群とコントロール群」
3. 学会等名 社会福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横井葉子・山野則子
2. 発表標題 「スクールソーシャルワーク事業モデルのインパクト評価その2-ワークショップによる参加型評価」
3. 学会等名 社会福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野則子
2. 発表標題 「子どもの貧困調査最前線～大阪の10万件データ分析からの提案とその実態～」
3. 学会等名 子ども虐待防止学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 キャロル・リップレイ・マサット、マイケル・S・ケリー、ロバート・コンスタブル、山野 則子、駒田 安紀、佐藤 亜樹、厨子 健一、半羽 利美佳、比嘉 昌哉、平尾 桂、横井 葉子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 640
3. 書名 スクールソーシャルワーク ハンドブック	

1. 著者名 山野 則子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 子どもの貧困調査	

1. 著者名 大島 巖、源由理子、山野則子、贅川信幸、新藤健太、平岡一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 416
3. 書名 実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法	

1. 著者名 山野則子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 249
3. 書名 『学校プラットフォームー福祉と教育の協働』	

〔出願〕 計0件

〔取得〕 計1件

産業財産権の名称 子ども支援システム、方法、およびプログラム	発明者 山野則子、中島智晴	権利者 公立大学法人大阪
産業財産権の種類、番号 特許、7450304	取得年 2024年	国内・外国の別 国内

〔その他〕

スクールソーシャルワーク評価支援研究所 http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/ http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/profile-noriko-y/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	嵯峨 嘉子 (Saga Yoshiko) (30340938)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・准教授 (24403)	
研究分担者	所 道彦 (Tokoro Michihiko) (80326272)	大阪公立大学・大学院生活科学研究科・教授 (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 スクールソーシャルワークをめぐる日米の動向：コロナ禍のなかで子どもの人権を守るために	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------